

エッジワース補完性と財政政策の効果について：
DSGE モデルによるアプローチ¹

酒井才介(財務省財務総合政策研究所)²・小寺剛(財務省財務総合政策研究所)・
荒木大恵(帝塚山大学)・中澤正彦(京都大学経済研究所)

リーマンショック以降、金融政策がゼロ金利制約に直面する中で、財政政策の役割が再び注目されている。特に、政府支出の増加が経済変数にどのような影響を与えるのかに関しては、数多くの先行研究が存在するが、標準的な RBC モデルやニューケインジアンモデルでは政府支出ショックに対して民間消費が減少してしまい、Blanchard and Perotti(2002)等による実証結果と矛盾することが知られている(「政府支出パズル」)。

政府支出と民間消費の関係について、先行研究においては、非リカード的家計や社会資本効果の存在を考慮する等の取組みが行われてきているが、Karras(1994)、Okubo(2003)、Iwata(2013)等は、政府消費が民間消費の限界効用を高めるモデルを構築し、政府消費と民間消費との間に補完性(エッジワース補完性³)があるとの実証分析を行っている。また、Fiorito and Kollintzas(2004)はヨーロッパ各国のデータを用いて、政府消費のうち医療等のメリット財の支出が民間消費との間に強い補完性があることを示している。

日本における政府消費については、今後高齢化に伴い医療や介護等の社会保障支出(メリット財支出)が大きく増加することが見込まれており、上記の先行研究を踏まえれば、エッジワース補完性を考慮した上で政府支出の効果进行分析する意義は大きいと考えられる。

本稿では、廣瀬(2012)のモデルに非リカード的家計、政府投資の社会資本効果、政府消費と民間消費のエッジワース補完性を導入した DSGE (Dynamic Stochastic General Equilibrium) モデルを用いて、日本の政府支出増加の効果を実証的に分析する。特に、政府消費についてはメリット財と公共財に区分し、それぞれの支出を増加させた場合の政策効果の違いを検証する。MCMC (Markov Chain Monte Carlo) 法によるベイズ推定の結果、上記の先行研究と同様、メリット財支出の増加が民間消費に対して正の影響を与え、政府消費を GDP 比で 1%増加させた場合の乗数が 1 を上回ることを示す。

本稿の分析は、エッジワース補完性の存在が「政府支出パズル」の解決に向けて一定の示唆を与えること、また政府支出のタイプによって経済変数への影響が異なることを示しており、財政政策の効果の議論に貢献するものと言える。

キーワード：エッジワース補完性、財政政策、DSGE モデル、ベイズ推定

JEL classification codes : C11、E32、E62

¹ 本稿の内容は全て筆者らの個人的見解であり、財務省あるいは財務総合政策研究所の公式見解を示すものではない。なお、本稿の作成にあたっては、「マクロ計量モデルの高度化・拡張と少子高齢化の進展を踏まえた財政・経済の中長期のシミュレーション」に関する研究会(財務省財務総合政策研究書、2015年3月)の出席者から示唆に富む御指摘、御意見を多数賜った。ここに記して感謝申し上げる。

² E-mail アドレスは、saisuke.sakai@mof.go.jp。

³ 本稿における「エッジワース補完性」とは、政府支出が民間消費の限界効用を上昇させる性質を指す。